



よこみせせいし ～横溝正史プロフィール～

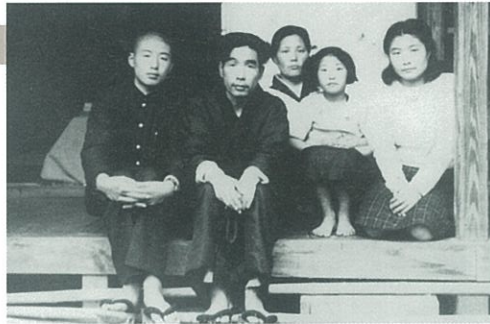
小説家/本名 正史(まさし) 神戸生(1902～1981)

神戸二中時代から探偵小説を耽読する。1921年、「新青年」に「恐ろしき四月馬鹿」を投稿し入選。大阪薬学専門学校に進み、卒業後は家業の生葉業に従事しながら探偵小説を書く。その後、江戸川乱歩の誘いで上京し、博文館に入社。1945年4月から1948年7月末まで両親が岡山県出身ということで、吉備郡岡田村(現・倉敷市真備町)で疎開生活を送る。この時期に見聞きた題材をもとに『本陣殺人事件』、『獄門島』など、岡山を舞台とした作品を発表し、作家としての地位を確立した。長男の大学進学を機に東京・成城に移る。その後、数々の探偵小説が大ヒットし映画化ドラマ化される。1981年、結腸癌のため死去。

～疎開地岡田村(現・倉敷市真備町)への感謝～

「ああ、加藤一さん。私の疎開生活でいちばん大きな収穫は、この人との出会いであつたらう。この人なしには「本陣殺人事件」も「獄門島」も「八つ墓村」も生まれず、従って現在の私のブームもなかったであろう。それらの農村や島の風物詩は、おりにふれて一さんの語ってくれた人情風俗におうところが多く、また意識的にこちらから教を請うた部分も少なくない。そして、それらの風物詩が私の拙い小説を、どんなに豊かにふくらませてくれているか、それは読者諸賢のよく知られるところであろう。

(『金田一耕助のモノログ』(角川書店/1993年)より)



疎開地での家族写真

(左から長男:亮一、正史、妻:孝子、次女:瑠美、長女:宜子)

特別展 横溝正史 生誕120年

2022年9月4日(日)
→11月6日(日)

吉備路文学館
KIBUJI LITERARY MUSEUM



現在の疎開地宅(倉敷市真備町)

～疎開地での作家活動～

- 1945年 4月、親戚の世話で岡山県吉備郡岡田村字桜に疎開。8月、終戦。本格的に推理小説を書く。
- 1946年 4月～12月「本陣殺人事件」を「宝石」に連載。(金田一耕助初登場) 5月から翌年4月「蝶々殺人事件」を「ロック」に連載。
- 1947年 1月から翌年10月まで「獄門島」を「宝石」に連載。11月、江戸川乱歩と西田政治が疎開地を訪ねる。12月、『本陣殺人事件』を青珠社より刊行。
- 1948年 1月、『蝶々殺人事件』を月書房より刊行。2月、『本陣殺人事件』で第一回探偵作家クラブ賞長篇賞を受賞。8月、疎開先より東京・成城に移る。



『蝶々殺人事件』
月書房/1948年

舞台:倉敷市真備町

舞台:真庭市勝山～湯原



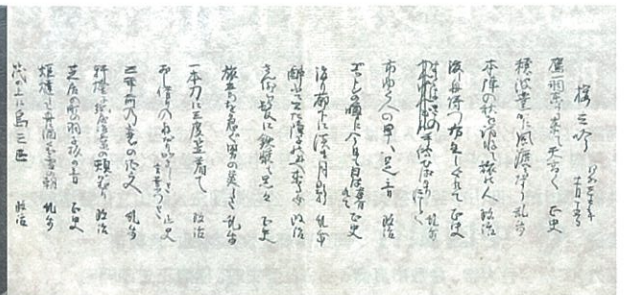
『本陣殺人事件』
青珠社/1947年



『夜歩く』
東方社/1954年



『探偵小説五十年』
講談社/1972年



『桜三吟』(横溝正史、江戸川乱歩、西田政治)
※『探偵小説五十年』見返しに掲載

岡山を舞台とした作品

「巡・金田一耕助の小径 ミステリーガイドブック」より

舞台:美作市旧作東町付近

舞台:笠岡市沖の島

舞台:新見市千屋付近



『悪魔の手毬唄』
講談社/1959年



『獄門島』
角川書店/1973年



『八つ墓村』
角川書店/1973年

北泉庭のご案内

吉備路文学館には、小さな日本庭園があります。館内からゆっくりながめたり、庭をめぐってみたり。四季それぞれの彩りをお楽しみいただけます。



秋冬 うこん桜